

もう春の気配があちらこちら

## だいぶ暖かくなりました

これを書いているのは三月七日です。ここ数日間、強い風が吹きました。おかげで境内がすごいことになっています。

この時期は、低気圧と高気圧が入れ替わりながら西から東へと移動します。天気はめまぐるしく変わり、ときに強い風が吹いたりします。いわゆる「春の嵐」となります。

ひと雨ごとに暖かくなっていきますが、今年は寒の戻りが強く、まだまだ気温の低い日が続くこともあります。気温変動が激しいので、なかなか体調管理もままなりません。大変です。

また、年度替わりということで、新しい環境に身を置く方も多くおられることと思います。

精神的にもややストレスが多めになるこの時期、免疫力が低下しやすくなります。免疫力を保つためには、栄養、睡眠がとても大事です。休めるときはしっかり休むことも大切です。そして体調を整えましょう。



## 神社うんちく帖

今回もまた前回の続きです。

前号で「世界の始まり」について書きましたので、今回は「生命の始まり」について『古事記』をもとに書いていきます。

### ◆芽吹く神「宇摩志阿斯訶備比古遲神」

前回登場した天御中主神・高御産巢日神・産巢日神の「造化三神」が作った世界は、まだまだなにもありません。そこに現れたのが、この「宇摩志阿斯訶備比古遲神（うましあしかびひこじのかみ）」です。

ちなみにこの神さま、『古事記』の中では一回だけしか登場しません。もう一つの神話である『日本書紀』においては、「可美葦芽彦舅尊（うましあしかびひこじのみこと）」という名前になります。本文には登場しません。

この神さまは名前の中に「葦」という文字があるように、地上世界に葦が芽を吹くように現れたとされる神さまです。

葦はとても生育が早く、旺盛に茂るところから、古くから強い生命力の象徴とされてきました。そして、その生い茂る地は豊かな土地であることから、この世界が力強い生命力にあふれたものであることを示しています。

### ◆ちよつと脱線

『古事記』と『日本書紀』では、神さまの名前が少し違ってきます。

今回ご紹介した「宇摩志阿斯訶備比古遲神」は、日本書紀では「可美葦芽彦舅尊」となります。

同じように、前回ご紹介した神さま達も、少し名前が違ってきます。

その表記の違いを『古事記』から『日本書紀』の順に書いていきます。

「天御中主神」は同じ。

「高御産巢日神」は古事記での名前。

「高皇産霊神」が日本書紀。

「神産巢日神」は古事記での名前。

「神皇産霊神」が日本書紀。

前回までは二つを混用していましたが、お話を『古事記』に沿って書いていきますので、今後は『古事記』に使われている表記で統一していきます。

今回からそれに則って「高御産巢日神」と「神産巢日神」を、『古事記』版に表記変更してあります。